

# 行政視察報告書

先般、鳥取県智頭町及び岡山県西粟倉村を視察した概要について、別紙のとおりご報告いたします。

資料その他については、事務局に保管しておりますので、ご高覧ください。

令和5年1月4日

## 産業建設常任委員会

委員長 菅原 正志

副委員長 佐藤 誠洋

委員 加藤 勝義

委員 鈴木 勝雄

委員 小野 正伸

委員 播磨 博一

横手市議会議長 寿松木 孝 様

# 産業建設常任委員会 行政視察

■期 日 令和4年10月11日（火）～13日（木）

■視察地 鳥取県智頭町、岡山県西粟倉村

## ◎鳥取県智頭町（10月11日訪問）

### 《智頭町の概要》

鳥取県の東南に位置し、岡山県に接しており、町の面積の93%は森林である。

智頭町では、平成9年度からスタートした日本1/0村おこし運動や、平成20年度に設置された百人委員会など住民自治を実践し、豊かで楽しく住み続けたい町をめざしている。その百人委員会の取り組みから生まれたのが、森林に通い、子どもの主体性を重視し徹底的に見守る保育に特化した「森のようちえん」事業である。このほかにも、森林・林業に関連した事業として、「森林セラピー」、「山人塾」や「智頭ノ森ノ学ビ舎」など数多くの取り組みが実施されている。

また、令和2年3月には「智頭の山と暮らしの未来ビジョン」を策定。山林を単なる“林業の現場”ではなく、住民の暮らしを支える大切な社会基盤と捉え、山林と人が調和し、暮らしや産業と共に地域の持続性を保っていくかを示している。今後は、これまでの事業とあわせ、森林環境譲与税を活用した事業や、間伐材等を活用した脱炭素に向けた取り組みを進めていく。

■面 積：224.70km<sup>2</sup>

■人 口：6,466人（令和4年10月1日）

■世帯数：2,713世帯（令和4年10月1日）

### 《調査事項：林業の取り組みについて》

- ・町が進めてきた林業施策や事業（森林セラピー、木の宿場（やど）プロジェクト、木育など）について説明を受け、その後、現場視察で町有林（手入れがしっかり行われており、下刈りも枝打ちも施された木が根元からまっすぐに伸びた美しい森林）を見学した。町の事業は、住民自ら事業を企画立案する「百人委員会」の取り組みから生まれたものも多く（木の宿場（やど）プロジェクトなど）、町が進めてきた「地域自治」が基本となっている。
- ・後継者不足はどこも同じであり、地元の若者は仕事として林業の道は選ばない状況（近隣市へ就職）だが、町は人材育成にも力を入れており、地域おこし協力隊制度も活用している。当初は役場職員として雇用していたが、現在は独り立ちできるように、自発型林業を担う若者集団「智頭ノ森ノ学ビ舎」に受入れを依頼しており、中には起業し生計を立てている人もいる。町外・県外の若者に注目されており、若者が若者を呼ぶ好循環が起きている。

鳥取県智頭町 林業の取り組みについて



国指定の重要文化財 石谷家住宅前にて



智頭町議会 谷口 雅人 議長ごあいさつ



菅原 正志 委員長あいさつ



森林セラピーコース 見学



町有林を見学



## ◎岡山県西粟倉村（10月12日訪問）

### 《西粟倉村の概要》

人口1,400人ほど。村の面積95%は森林であり、そのうち84%が人工林である。

西粟倉村は、平成16年、隣接市町村との合併案を否決し、単独で生きることを村議会で決議した。だが、かつて村を支えた林業は衰退し、貴重な収入源であった養蚕は国内でもほとんど行われなくなっていた。以前とは産業経済も社会状況も違う中、森林しかない村がどうやって生き残っていくのか。

それを打破するために村が打ち出したのが、平成20年に公表した「百年の森林（もり）構想」である。50年前に植えられた人工林を今後50年手入れし、価値ある百年の森林をつくっていくこと、そして豊かな森林に囲まれた上質な田舎をつくっていくことを宣言している。

森林という地域の自然資本の価値向上や、地域に眠る未活用の資源を価値に変える取り組みなど、行政・森林所有者・林業事業体・ローカルベンチャーなどの様々な事業体が協働し、小さくても「身の丈に合った」雇用や経済を生むことで地域の持続につなげている。

■面積：57.97km<sup>2</sup>

■人口：1,377人（令和4年9月末）

■世帯数：598世帯（令和4年9月末）

### 《調査事項：百年の森林（もり）構想について》

- ・約50年前に植樹された森林を今後50年、村ぐるみで生かしていこうという森林づくりのビジョンが「百年の森林（もり）構想」である。村で生産された木材を96%使用して建てられた役場の中で説明を受けた。会議室のイスなどにもローカルベンチャーである地元企業の製品が使用されており、官民一体となってまちをつくっている状況がうかがえた。役場は、図書館や生涯学習施設も併設された複合施設であり、大人も子どもも自由に集える場になっている。
- ・官と民が協力し合い、木を植え育て収穫し、適材適所で使用するサイクルを確立するという、村内での持続可能な森林活用を目指しており、その基礎となるのが、個人所有の山林を村が一括して管理し、森林整備を進める仕組み作りである。所有者と村が10年間の長期施業管理委託契約を結び、森林経営計画に参入。計画参入することにより補助金や交付金を受けられるメリットがあるほか、山林を集約して管理することで林道整備なども進めやすくなる。事務や施業に係る費用は全額村が負担し、木材（丸太）の販売収益は所有者と村で折半するというもの。また、間伐材を活用した事業を行うローカルベンチャーが増え続け、ここ15年ほどで30者以上の企業・事業家が誕生している。



岡山県西粟倉村 百年の森林（もり）構想について



ローカルベンチャー 森の学校が運営するカフェ BASE101%にて ジビエ（鹿肉）ランチ



産業観光課 妹尾・主事より 百年の森林構想の概要について説明を受ける



村産材 96%使用の役場内を見学

菅原正志 委員長

### ◎鳥取県智頭町：林業の取り組みについて

多くの産業の中の一つではなく、林業で生きていく町の取り組みを知ることができた。山林が面積の93%を占め、民有人工林率78.61%は鳥取県内でも突出しているとのことであった。きれいに枝打ちされ、まっすぐにのびた杉林は息をのむ美しさであった。林業の基本を、安定した生態系を維持しながら、無理なく着実に長期間に渡って木材や様々な林産物の生産を続ける産業としていた。

長伐期施業、多間伐施業の山林経営で世代を超えて共有するという山づくりをしていた。次の世代に何を残すのか。それは「伐採する木を選ぶ林業」から「残す木を選ぶ林業」への転換である。

また、人口減少社会という現実の中で適正な山林利用や管理、林業だけではなく地域の担い手ともなる人材の育成という課題があった。そこで「智頭の山と暮らしの未来ビジョン」が、2030年に向けた布石として策定されたそうだ。4つの柱で構成されており、内容は以下のとおりである。

1. 山村の暮らし「生活」と「生き方」
2. 自然環境「ヒト」と「ヤマ」
3. 山林の管理・マネジメント「所有」と「利用」
4. 林業経営「木材」と「人材」

手上げ方式で町民からアイデアを募る百人委員会や林業マルチワーカー、木の宿場実行委員等の説明があった。

印象的だったのは、森林セラピーの取り組みである。森林は癒しのエキスパートと捉え、町内6カ所にコースが設置されていた。森のガイドが6名いて、希望者には有料で案内してもらえるとのことだった。我々もスキー場跡地の現場を視察した。見事な杉林、遠くに水の音が聞こえ、実際に歩いてみたいという気持ちになった。

また、多様な品種の植栽が計画的に行われているとのことだった。行き帰りの道は、思わず身を固くしてしまいそうな細い林道だったが、森の入口といった感じで興味深かった。林業しかないという条件下で、多方面からの山と共に生きる取り組みは横手市林業へのヒントとなるものが多くあったと思う。

### ◎岡山県西粟倉村：百年の森林構想について

今回の視察のきっかけとなったのは、NHKで放送された「森のうなぎ」である。百聞は一見に如かずの気持ちで訪れた。村の面積の93%が山林、しかも人口1,400人。雪も多いという村であった。村をあげて掲げる森林づくり、村づくりの根幹となるビジョンである「百年の森林（もり）構想」。ポイントは「地域資源に付加価値をつけて経済を循環させる」ということ。

2008年を基点として、それ以前の50年、良い山を育てるために光の差し込む森林づくりを実現。村から再委託した民間事業者が中心になり、地権者の山を一括管理している。そこからの50年、ローカルベンチャーと森林再生のための商品化を推進している。行政が仕組みをつくり、民間が事業推進するという形態になっていた。

「百年の森林事業」の課題解決に向けた取り組みとして、4点があげられていた。①森林資源の定量化のために、レーザー航測を用いたこと。②百森事業の実行体制の改革として株式会社百森が設立され、2019年度事業主体が役場から株式会社百森へ。村は大株主という存在。③新規契約者の確保。3年かけて森林信託を実施。④森林の新たな価値の創造。森林の価値が低いと信託されない。価値の最大化に向けて、SDGs未来都市、森林RE Design。あわせて、人が人を呼び、事業の波及効果によって関連企業が立ち上がった。様々なツアーを通して、西粟倉のファンづくりや木育の事業も実施されていた。

村産材を96%使用した公共施設である、あわくら会館で説明を受け、施設内を見学した。総事業費24億円の眩いばかりの木造施設だった。鳥取県境に近い山中の村でありながら、高速で大阪まで2時間というアクセスの良さから、この日も大阪の中学生の団体が学習に来ていた。

百森の会社訪問は実現しなかったが、昼食をいただいたレストラン、BASE101%で偶然社長と話す機会を得た。「森のうなぎは苦戦しています」と苦笑いしていた。確かに肉厚の鰻には及ばなかった。「ハウスイチゴが中心になっており、10アールで1,000万円の売上げがあります。ハウスは1億円ですが」という発言には驚いた。32歳の若者の成功を祈るばかりである。1,400人の村民の10%が移住者であり、地域で自ら仕事をつくる「ローカルベンチャー」に触れることができた気がする。

横手市における林業、背景は似ているが、訪れた2つの地域に学ぶことは多い。働き、生活できる林業、人を呼び込める癒しの場の提供、森林環境譲与税を有効に使いながら、林業のRE Designのきっかけになった研修であった。

佐藤藤誠洋 副委員長

### ◎鳥取県智頭町：林業の取り組みについて

3年ぶりの常任委員会視察となった今回、視察で智頭町を訪れるのは、自分は2回目であった。今回は、「智頭の山と暮らしの未来ビジョン」を策定し、まちづくりの指針としたことについての視察である。自らが主導的に計画を策定し、森林環境譲与税を活用していく。森林問題を取り巻く状況・課題は横手市と同様であるのに、智頭町では、例えば地籍調査は既に50%が済んでいた。横手市は、いつから始めるのか。

県職員から町の職員になった担当課長のカリスマ性を強く感じた。定期人事異動では、せっかくの専門知識や経験が生かされなくなる。「引継書」を作成しても、新しい担当者は、知識は一から始めなければならない。合併時、利点として「専門的な職員を養成できる」とあった。一部部署で本人の希望なのかどうか、長い職員はいるが、今の横手市はどうなのか。

先進事例の行政視察で感じることは、「専門的なカリスマ職員の存在」である。また、智頭町は前回訪問時とは町長が変わっていたが、森林行政の進め方は前町長の進め方そのままだった。このことも、とても印象強く残った。

現場にも案内いただき、管理が行き届いた日本有数の見事な杉の森林を目のあたりにすることができた。

### ◎岡山県西粟倉村：百年の森林構想について

人口1,400人弱の小さな村で、智頭町とは県境の山でつながっている。こちらにも放置された森林、不在村者の増加などの課題があり、村が主体となって森林整備を進める仕組みが必要であると考え、「百年の森林（もり）構想」をつくり上げた。

昨年竣工したばかりのあわくら会館で説明を受けたが、生涯学習施設、図書館、役場庁舎が一体となった複合施設であった。村産材が96%使用されていて、建築もとても美しく、木の香りが素晴らしかった。また、向かいの保育園は、村産材を99%使用していた。公共施設が隣接しており、暖房は1カ所で廃材を利用した熱源で、お湯をパイプで回して行っている。冷房は、地下水を循環させていた。

森林について、地籍調査は100%達成されていた。レーザー航測により、尾根や岩の出やすい箇所等を地図上で見える化し、効率的な作業計画をつくる仕組みが確立されている。

森林環境譲与税は毎年100%使っており、新たな雇用が生まれ、売り上げが増加していた。横手市がこれから行わなければならない森林行政の具体的な施策づくりの参考になるものと感じた。

加藤勝義 委員

### ◎鳥取県智頭町：林業の取り組みについて

#### ○智頭町の概要

鳥取県の東南部に位置し、西と南は岡山県に接する山間地域で、人口約6,400人余り。町の面積の約93%を山林で占めている。民有林人工林率も総林野面積の約79%で、江戸時代からの伝統林業地である。

#### ○視察内容（座学）

「智頭の山と暮らしの未来ビジョン」を打ち出して、様々な森林・林業に関連した事業を行なっている。山林を単なる「林業の現場」ではなく、住民の暮らしを支える大切な社会基盤と捉え、山林と人が調和し持続可能な地域づくりをしている。森林環境譲与税の活用とともに、各種事業の取組の説明を受けた。

#### ○視察内容（現場）

「森林セラピー」「木の宿プロジェクト」「木製バイオマス利用」「智頭ノ森ノ学ビ舎」「木育」など多くの事業の中で、森林セラピー体験場所や、狭隘で急こう配の林道を車で移動して、徹底的に整備された美しくもある樹林帯を視察した。

#### ○まとめと感想

- ① 座学の質疑で、行政が事業を進めていく中で、まずは森林の大切さを住民に意識を持っていただくための、智頭町の取組が素晴らしいと感想を述べた。一つは「SDGs未来都市」に選定され、ゴールやターゲットに林業関係や森林



を生かしたまちづくりも盛り込まれていること。二つは文化庁から智頭の林業景観を「文化的景観」に選定されたことから、行政と住民で意識の統一が計られていることだ。この二つについて、横手市でも、計画策定し選定されることが必要と一般質問したことがあるが、前向きでなかったことを思い出しながら話をした。

- ② 智頭スタイルの山づくりとして、大径材生産の長伐期多間伐による持続可能な山林経営を進めているとしていた。全国的に、これまでの柱材生産を主体とした短期皆伐からの転換が進んでいる。大径材生産には、地力土壌保全が必要となるが、智頭町では更新時にすべて杉だけで良いのか、併せて広葉樹への樹種転換も考えるべきとしていた。それにより、有機土壌に移行できるとしていった。また、大径材搬出用の広い作業道や林道も必要となるが、現在は2 m程の狭い林道であった。この対策も必要になってくるのではと感じた。
- ③ 森林環境譲与税活用の中で、人材の育成・活用が一丁目一番地との説明があった。智頭町では、自伐型林業を担う若者の移住が進んでいた。これは、林業だけでなく地域の担い手として、地域の福祉をも支えることになるとしていた説明に、持続可能な地域に向かい進んでいる印象を受けた。

## ◎岡山県西粟倉村：百年の森林構想について

### ○西粟倉村の概要

西粟倉村は兵庫県と鳥取県県境の近くに位置し、人口約 1,400 人、約 57 km<sup>2</sup>の面積のうち約 93%が森林を占めており、そのうち 84%が人工林である。今年度一般会計予算は、約 43 億円である。近隣市町村との合併を否決し、単独で進めることとした村。林業も衰退し、森林しかない村の生き残りをかけて平成 20 年に「百年の森林（もり）構想」を打ち出した。

### ○視察内容（座学）

「百年の森林（もり）構想」は、50 年前に植えられた人工林を今後 50 年手入れし、価値ある百年の森林をつくっていくこと、そして、豊かな森林に囲まれた上質な田舎をつくっていくことを宣言している。行政・森林所有者・林業事業者・ローカルベンチャーなど様々な事業者が協力して、小さくても「身の丈に合った」雇用や経済を生むことで地域の持続に繋げていくとしていた。

百年の森林事業の基本は、個人所有者が村へ山林管理を一時的に委託するもの。契約を受けて村は、村が出資して作った株式会社百森へ再委託し、施業し搬出・販売をして収益をそれぞれに分配し、村では一般会計に繰り入れする。また、この事業により村内で 100 名以上の雇用が生まれ、関連企業の総売り上げが 1 億円から 11 億円へと大幅に増えたとのこと。村が主体となって森林整備を進め、収益を分配するまでのフローが確立されていると感じた。また、作業道や林道の整備では、村が個別の山林を預かって、山林境界を気にすることなく一体的に手入れすることができ、林業機械や搬出用作業道を効率的に整備できるメリットもあるとしていた。

### ○視察内容（現場）

村産材を利用した公共施設が多くあり、その中であわくら会館（図書館・役場庁舎等）を見学した。村産原木使用率 96% という施設であった。木材をふんだんに使い、柱の無い役場執務大空間スペースには驚いた。

#### ○まとめと感想

森林しかない村の生き残りをかけて進めている、百年の森林事業の挑戦には、熱意を感じた。また、この村も「SDGs 未来都市」に選定されており、住民の意識向上につながっているのではと感じた。小さくても「身の丈に合った」雇用や経済を生むことで、地域の持続に繋げていくとしている思いが伝わってきた。2024 年から個人住民税均等割の枠組みで、一人年額 1,000 円が課税される森林環境税が開始される。横手市も、面積の約 54% が山林である。今後しっかりとした計画を持って、森林環境整備をして行かねばならないと感じた。

### 鈴木勝雄 委員

#### ◎鳥取県智頭町：林業の取り組みについて

林野率が 92.8% の智頭町において「林業」は町の基幹産業であり、持続的な山林経営、「森林セラピー」や「木の宿場（やど）プロジェクト」における森林資源を活かした観光や地域活性化などへの取り組みは、当市の林政推進において参考とすべき点であると感じた。

前町長からの強力なリーダーシップのもと、将来にわたる林野行政のあるべき姿を示したビジョンを作成し、森林を生かしたまちづくりを推進している。一方で、住民が自主的にまちづくりに参画する「百人委員会」の設置により、聞く耳もしっかり持っている。

説明の中で、森林環境譲与税の活用について山林の所有者の責務を明確にし、市の第三セクターで働く若者（東京からの移住者）が仲介役を担い、民有林の間伐、皆伐、再造林化などを推進している点については、停滞している当市の森林経営管理制度の運用に活かすべきと考える。

#### ◎岡山県西粟倉村：百年の森林構想について

人口 1,400 人足らず、うち移住者が 1～2 割を占めるという話に驚きを覚えた。移住し、木工製品の製造会社やウナギの養殖場などを立ち上げ頑張っているとのことだったが、必ずしも全員が定住するとは限らないとの話を聞いた。起業し、安定した収入を得、家族を持つ・養うまでの道のりは、当たり前だが、相当険しいと感じた。

智頭町とほぼ同じで、村の面積の 93% を森林が占める、林業が基幹産業の村。保育士を除く役場職員数が 35 人、今年度の一般会計予算が 43 億円ということにも驚いた。説明を受けた 20 数億円をかけた役場、図書館機能を有する木造の複合施設では、学校帰りの小中学生が勉強や会話を楽しんでいて、とにかく、一脚 10 万円の椅子をはじめ、この施設の備品などすべてにわたり、地元産木材を導入、活用している徹底ぶりには、村をあげての森を活かしたまちづくりの覚悟や真剣さが伝わってきた有意

義な研修であった。

両自治体とも、森林環境譲与税を活用した森林施業に関わる人材育成、新生児への木製玩具の贈呈、公共施設における木材利用の推進、森林経営管理事業を円滑に進めるための工夫や努力、施業部分の集約化やレーザー測量資料の活用など、本市においても参考にすべき点、導入すべき事業が多々あった。

#### 小野正伸 委員

##### ◎鳥取県智頭町：林業の取り組みについて

町の面積の9割以上が山林であるが、町民からの様々なアイデアを取り入れて先進的なまちづくりを実現させていたことが第一印象だった。国内の林業が低迷しているにも関わらず、森林を林業の現場から、豊かな生活を支える社会基盤として前向きに捉え、「森のようちえん」などを内外に積極的にPRし、家族ぐるみの移住者が増えている現状はうらやましい限りであった。

また、令和6年度から賦課徴収される「森林環境税」の前段としての「森林環境譲与税」についても当市より多額に交付されており、有効活用されていた。

##### ◎岡山県西粟倉村：百年の森林構想について

平成の大合併をせずに自立したむらづくりを目指したこの村も、人口は現在1,300人。95%は山林であり、見た目は山深い山村だが、行政はもちろん、民間企業が地域の新たな経済を生み出すローカルベンチャーに力を入れていたことが特徴的であった。

若い移住者も多く、閉校した小学校の教室を活用し、様々なお店を開いて、新しい発想でビジネスを切り拓いているようだった。「道の駅 あわくらんど」で『あきたこまち』の、のぼりを掲げて新米を販売していたことに驚嘆。

今は大変だけど、50年経った森林がプラス50年で立派な財産になるという「百年の森林（もり）構想」に共感して人が集まる、素晴らしい村であった。

2つの町村に共通していることは、まちの真ん中を無料の高速道路が走り、時間的に鳥取市や関西圏に近いことが特筆される。他から人を呼び込むためには、都会からの交通アクセスの良さは必須条件ではないかと、改めて感じた。

#### 播磨博一 委員

##### ◎鳥取県智頭町：林業の取り組みについて

町の面積の93%を森林が占める。横手市も森林面積はかなりあるが、林業の位置付けが全然違うと感じた。様々な林業施策を展開しているが、その中に町民の声が反映された事業も多い。その中でもユニークな取り組みと思われたのが、山林に放置されている間伐材を出荷すると地域通貨で買取りする事業などは、経済を地元で回すとい

う観点からみると参考になると思う。

また、人材育成として地域おこし協力隊を活用している点でも面白いと思った。林業を営む若者集団が隊員を受け入れ、独り立ちをサポートしている。これが町外の若者に注目されており、若者が若者を呼ぶ好循環が起きている。農業でも同じようにできるかもしれないと感じた。

#### ◎岡山県西粟倉村：百年の森林構想について

村の面積の95%を山林が占める。この村の取り組みは、今50年生まれて育った森林の管理をここで諦めず、村ぐるみで50年頑張ろう。そして、美しい百年の森林に囲まれた上質な田舎を目指すということで、百年の森林（もり）構想を策定している。ポイントは、地域資源に付加価値をつけて経済を循環させるということだった。そのための方法として個人所有の山林の管理を村が受け、さらに再委託することで補助金の受け取りや効果的な事業の進捗が図れるということだった。課題となると思われた地籍調査は完了済みとのことで感心した。横手市ではこれがあまり進んでいない。

今回視察した両町村とも基幹産業である林業を軸に様々な施策を展開していたが、どちらの町村も置かれている環境の中で課題や将来の展望を住民と共有するための仕組みづくりに力が注がれていることを強く感じてきたところである。